

防衛基盤整備協会の主要事業である 「防衛思想の普及」事業の防衛思想 の意味について

宇田川 新一

(1) 協会の定款にいう防衛思想とは、国際軍事情勢の分析から導き出される日本を防衛するために必要な①日米同盟、②わが国自らの防衛力整備、③防衛行動の後拠となる防衛基盤をいう。

(2) 日米同盟の必要性

⇨「グローバルな軍事対峙状況」

- 1 地政学的環境
- 2 戦略戦力

⇨「東アジアの軍事的対峙状況」

- 3 日本の地政学的位置と周辺の軍事力の状況
- 4 日本のとるべき方向

・真のグローバル戦力は米国のみ

海外支援（海外遠征）能力をもつのは米国のみ。

・東アジアは米中ロの国力の進行方向が重なる3重合点にあり、国際関係上、中立的な立場は取り得ない。

・日本は海外交流によってしか、繁栄は見込めない。

・米国と日本は国益上の共通の利害が多い。

⇨米国との同盟が至当。

(3) 我が国自らの防衛力整備

(4) 防衛行動の後拠となる防衛基盤

5 法制度から見た防衛力の状況

・欠落部分

(1) 予備勢力

- ①戦闘要員
- ②予備物品
- ③船舶、航空機の転用制度・補助金支給
- ④修理工場
- ⑤後方地域の警備・消防組織

(2) 緊急増産能力

- ・各装備品別
- ・民間工場の転換

(3) 民間防衛

(4) 捕虜収容所

(5) スパイ防止法

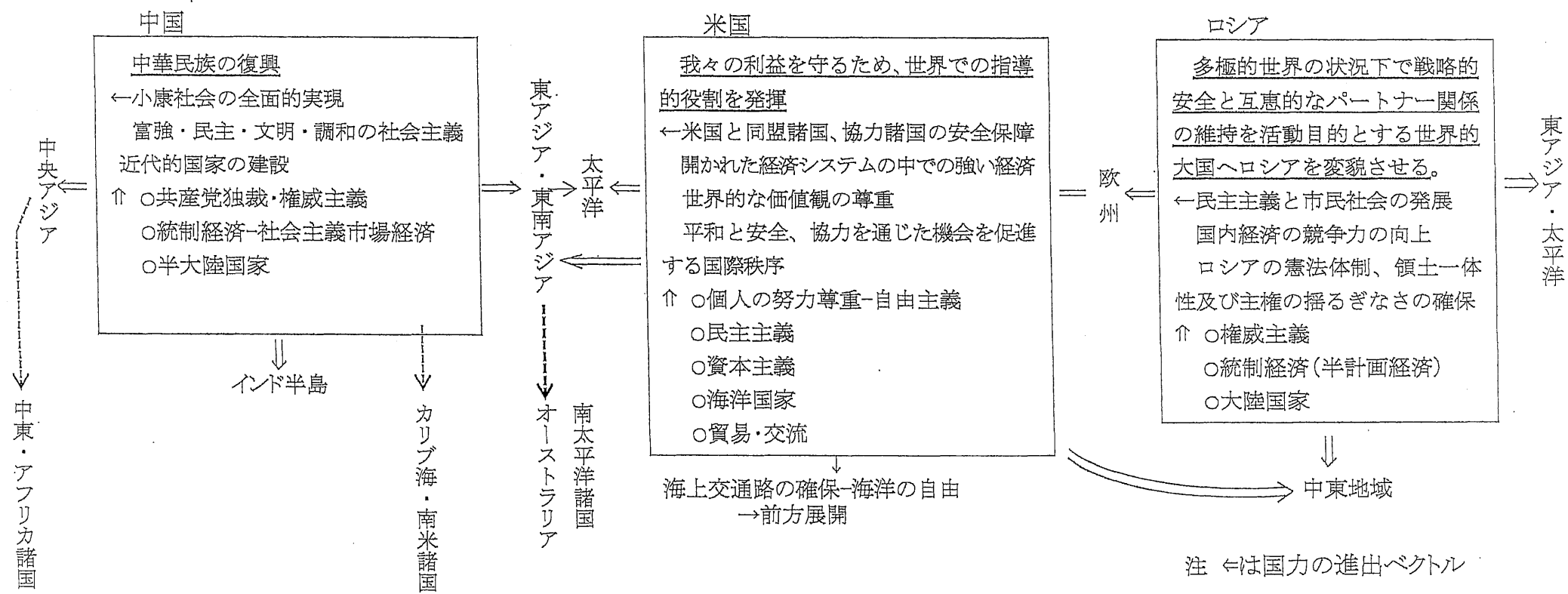
⇨いわゆる防衛基盤にも欠落或いは大きく不足している分野が多い。

⇨当協会としての普及の努力が必要。

グローバルな軍事対峙状況

平 28.03.10 BSK シナリオ作成委員会

1 地政学的環境



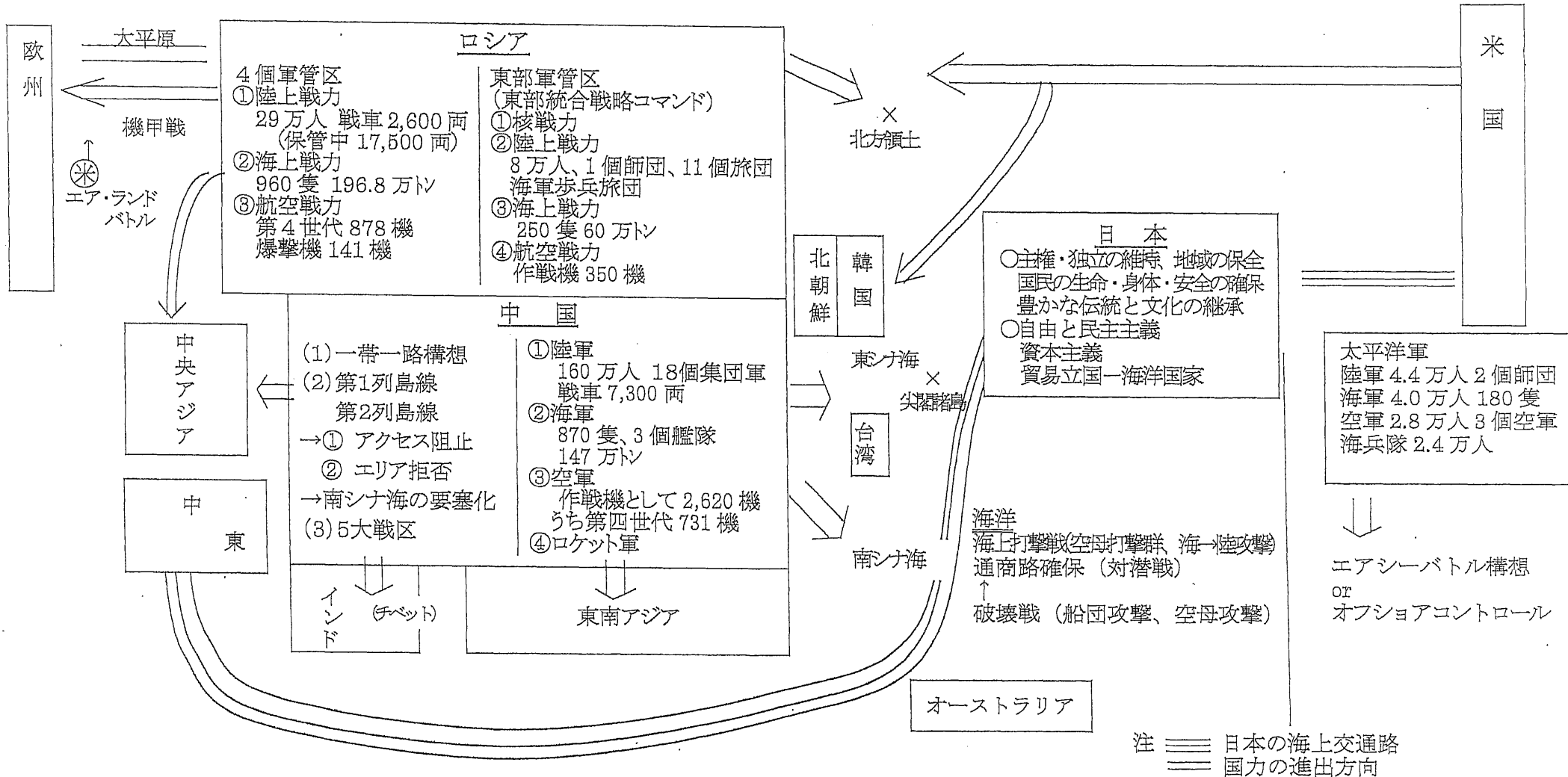
2 戦略戦力

(1)核戦力		米 国	ロシ ア	中 国
① 保有戦力				
A 攻撃力と防御力		相互確証破壊	相互確証破壊	最小限抑止
	爆撃機	◎	◎	—
	防空システム	◎	△	—
	ICBM	◎	◎	○
	SLBM	◎	○	○
	攻撃型潜水艦	◎	◎	—
	水中監視システム	◎	△	—
	弾頭の多核化			
	MRV	—	○	○
	MIRV	◎	○	一部
	MaRV	一部	—	—
B 評価				
第一撃力	第一撃力	◎	◎	○
	対兵力攻撃	◎	◎	—
	第二撃力	◎	○	限定的
	第三撃力	○	△	—
② 早期警戒能力		◎	○	—
③ 通信能力		◎	?	—
(2)遠距離兵力投入能力		前方展開部隊、地域軍		
	投入部隊	海外展開空軍、海兵遠征部隊、地域艦隊	限定的(空挺部隊)	—
	通信・偵察能力	◎	○	—
	後方補給能力	○+同盟国の支援	—	—
(3)今後の方向		即時地球規模攻撃(PGS) X-47、CSM	—	—
3 全般的評価		グローバルな部隊展開可能 ↑イラク戦争	近接地域への部隊投入可能 ↑ウクライナ東部の制圧	限定的な近接地域への部隊投入可能 ↑チベットの制圧
今後の方向		グローバルな海上、航空交通路の維持	旧ソ連圏の回復	旧清国圏の回復(台湾・朝鮮半島)

注 国際情勢は、絶え間なく変化しており、図式化することは困難だが、現時点における特徴をまとめてみた。

東アジアの軍事的対峙状況

3 日本の地政学的位置と周辺の軍事力の状況



4 日本のとるべき方向

- ①真のグローバルパワーは米国のみ
海外支援能力(遠征能力)は米国のみ
- ②東アジアは、米中ロの国力の進出方向の重なる3重合点→中立は認められない。
- ③日本は海上交通路によって結ばれた貿易を通じてのみ繁栄可能
- ④国家体制、仕組みで共通性のある国は米国のみ
——→日米同盟が至当